

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	摂南大学寝屋川キャンパスクラブハウス	階数	地上4F
建設地	寝屋川市池田中町5-2の一部他	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	400 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,400 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年4月22日
敷地面積	96,197 m ²	作成者	戸川 勝之
建築面積	686 m ²	確認日	2016年4月22日
延床面積	2,483 m ²	確認者	戸川 勝之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	大阪府寝屋川市にある摂南大学寝屋川キャンパス内の、部室棟新築計画である。4階建ての鉄骨造の建物は、広大な大学敷地内で他学部棟との調和を図るとともに、近隣環境にとけこむような奇抜な外観や色調とならないよう計画としている。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
合宿所間の適切な箇所に遮音壁を設け、無理のないカタチで自然採光・自然換気・自然通風が可能となる建具形状の採用など、音・空気・光・視環境に十分に配慮した計画としている。また、全館禁煙など運用管理についてもできる	高耐久抗菌UV樹脂コーティングした床材等を取り入れるなど、維持管理に優れた素材をふんだんに取り入れ、階高3.6mとして計画し、空間のゆとりを確保している。	敷地境界に沿って緑地帯を設け、キャンパス内に出来る限り緑地を設けることで、寝屋川市の掲げるみどりの街づくりに貢献できるよう努めている。同時に、景観的にもキャンパス内建物外観の調和を図り、近隣環境に溶け込むよう
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外壁部の断熱には吹付け硬質ウレタンフォームを採用し建物の高断熱化を図るとともに、高効率な設備システムを採用することで建物全体の省エネルギー化を図り、環境負荷低減に努めている。	節水型便器の採用や、躯体材料に高炉セメントの利用、有害物質を含まない材料の使用を徹底している。	交通負荷抑制として、利用者のための適切な駐輪スペースの確保・利便性の配慮や、管理用車両・荷崩き用車両スペースの確保に取り組んでいる。さらに、光害対策として広告物照明なしや、建物外壁反射光の抑制に努めるなど周辺環境に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム 2015年版

大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H28-0032

Osakafu-新築・既存 2015V1.03

【建物概要】	建物名称	摂南大学寝屋川キャンパスクラブハウス(仮称)新築工事					
	建設地	寝屋川市池田中町5-2の一部他					
	用途/区分	学校					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
	CO2削減					3	
	省エネ対策					4	
	みどり・ヒート アイランド対策					3	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告					報告しない	

【評価項目】								
省エネルギー対策		① CO2削減						
		② 省エネ対策						
項目		評価内容			スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			3.4	3		
② 省エネ 対策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価	建物全体	3.0	4			
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価						4.0
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価						4.0
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価						4.0
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価						3.0
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価						3.4
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	報告しない		
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策						
項目		評価内容			スコア	評価		
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			3.0	3		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価			2.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価			2.0			
その他								
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項								